



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
3月4日
発行

第20回

臨時号「株式市場見通し」

～ 一旦は反発と予想～

初めに

世界の株式市場は2020年に入っても上昇を続けていましたが、中国で発生した新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)感染拡大の影響に伴って徐々に勢いを失い、最近は大荒れとなっています。昨晩はFRB(米連邦準備制度理事会)が緊急利下げに踏み切ったにも拘わらず米国株は下落しました。そこで今回の臨時号のウィークリーレポートでは日本を含む世界の株式市場の見通しについて考えてみました。

利下げが効かなかった理由

まずは昨晩の利下げが米国の株式市場に効かなかった理由について考えてみます。金融緩和は株式市場では万能薬的に使われていますが本来はそういうものではありません。景気の悪化を食い止める効果はありますが、それほど大きなものではありません。新型コロナ感染拡大の影響が続いている現状においては、金融緩和だけでは不十分と見られたことが、利下げが効果を持たなかった理由と考えています。

反発を見込む理由は心理的なもの

その一方で株式市場はここから少なくとも一旦は反発すると見ています。理由は景気の悪化が食い止められるといったものではなく、心理的なものです。FRBの利下げに期待していた投資家は多かったと思いますが、結果はご存じのとおりです。この場合、裏切られた投資家は見切り売りを出すことになる予想されます。株価は一段と下落することになるでしょう。しかしその後はどうでしょう。ここまで辛抱してきた投資家が見切り売りを出した後は、売り手不在の状況になります。そうなれば反発も見込めるでしょう。

本格上昇の目途は4月か

もちろんこの上昇は一時的なものにすぎません。株式市場の本格上昇のためには少なくとも新型コロナ感染拡大にブレーキがかかることが条件となります。その時期を特定するのは困難ですが、現時点では仮置きで4月中と考えています。理由は2つあります。1つは気温の上昇が見込めることです。暖かくなれば、ウィルスの活動は鈍くなると予想されます。もう1つは中国の政府チームトップの発言です。中国での感染拡大について、「4月末までに基本的に制御できる自信がある」と2月28日付け読売新聞は掲載しました。チームトップは、理由として中国本土では新規の感染者が減少傾向にあることなどを挙げています。

以上、いろいろ述べてきましたが、今後の株式市場については当面は反発が期待できる。またその先については4月にかけて、新型コロナ感染拡大に歯止めがかかるかどうかのポイントになると考えています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したものではありません。あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。